



興生総合病院が県内初導入 人工関節手術支援ロボット

ROSA Knee(ロザ・ニー)

(医)里仁会興生総合病院は、最新の人工関節手術支援ロボット「ROSA Knee(ロザ・ニー)システム」(米Zimmer Biomet社製)Ⅱ写真を広島県で初めて導入した。同システムでは、人工関節置換術で執刀医のサポートを行う、手術支援ロボットを用いる。

ロボットは、六軸多関節ロボットアームと光学カメラユニットに分かれており、患者の膝の位置を正確に把握し、人工関節を置換するための骨切り量を0・5mm単位、角度を0・5度単位で微調整

が可能なため、より精度の高いインプラン
ト設置が期待できる。

手術中にリアルタイムでの計画変更も可能なため患者個々に対して柔軟に対応できる。

またロボットが自動で骨を切るわけではなく、術者の指示に従い正確な手術をアシストする。

人工関節置換術とは、変形性関節症や関節リウマチなどの疾患により、悪くなった関節の表面を取り除いて、人工関節に置き換える手術。

人工関節は、主に金属やセラミック、ポリエチレンなどでできており、関節の痛みの原因となっている部分を取り除くため、他の治療法と比べると痛みを取った効果が大きいのが特徴。同システムは危険適用となっている。

問い合わせTEL0848・63・5500
興生総合病院